

施設一体型小中一貫校の再検討について

～子どもたちにより良い教育と施設環境を～

保護者の皆様方には、お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。コロナ禍の中、常日頃から学校運営に対し、ご理解とご協力をいただき深く感謝いたします。

さて、教育委員会で周知しご意見をいただいていた、中学校区ごとの施設一体型小中一貫校の開設について、昨今の社会環境の変化を考慮し再検討することとなりましたので、今までの経緯や理由、今後のことなどをお知らせします。



1 教育をめぐる課題と解決に向けて

全国的に少子化が進む中、毛呂山町の児童生徒数も減少しています。このため、小学校では単学級が進行してしまう、また中学校ではクラス数が減り配当教員数が減少してしまうなどの懸念が生じています。一方、小中学校校舎の多くは昭和40年代から50年代にかけて建築されたものが多く、老朽化が進行しています。

教育委員会では、これらの課題を解決し、より良い教育と施設環境を充実させるため、平成25年度から町内各種団体から選出された方々に検討していただきました。そしてその報告をもとに、平成30年度に「未来を拓(ひら)く人づくり(小中一貫教育)プロジェクト基本方針」(以下、プロジェクト基本方針)を策定しました。そしてこのプロジェクト基本方針の根幹である小中一貫教育を充実させるため、保護者や地域の方々に協力をいただきながらコミュニティ・スクールを推進することとしました。

2 施設一体型小中一貫校の開設案と教育環境の大きな変化

小中一貫教育を進める上での小中一貫校の“かたち”は、「施設一体型」「施設隣接型」「施設分離型」の3種類がありますが、教育委員会では、プロジェクト基本方針を最も効果的に推進するには、校舎に全9学年があり教職員が一体となる「施設一体型」小中一貫校が望ましいと判断しました。そして大規模改修工事が終了している両中学校にそれぞれ小学校2校を集約し、その開設を川角中学校区は令和8年度、毛呂山中学校区は令和10

年度に目指すこととしました。この考えを、保護者をはじめ町民の皆様にお知らせし、ご意見をうかがう広聴会を令和2年度から開催してきたところです。

一方、プロジェクト基本方針を策定した平成30年度以降、教育を取り巻く環境は大きく変化しました。ここ数年の新型コロナウイルス感染症の流行は社会全体の変化を促し、人々は新しい生活様式によって行動するようになりました。学校教育においても、密を避けるための分散授業や、きめ細かな指導を可能とする指導体制と安全・安心な教育環境を確保するため、小学校の35人学級が段階的に導入されることとなりました。

3 より良い学校の“かたち”を再検討

施設一体型小中一貫校の開設については、平成30年度にプロジェクト基本方針を策定してから、広聴会などで多くの方々から意見をいただけてきましたが、ここ数年の社会的な状況や教育をめぐる環境は大きく変化しました。教育委員会ではこの変化に対応し、子どもたちにより良い教育環境を確保するためには、施設形態や時期なども含め、もう一度学校のあり方を再検討することが適当であるとしてきました。

今年度は、子どもたちにとってより良い学校のあり方について、教育環境が変化したことを踏まえたご意見をうかがう「毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会」を開催します。内容などについては、ゆずの里通信などで今後も周知してまいります。



毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会の公募委員を募集します

内容：今年度に4回開催する予定の検討委員会で、子どもたちにとってより良い学校環境について意見を述べていただきます。

人数：5名

対象：令和4年4月1日現在で18歳以上の町内在住の人
(町行政委員会委員、町職員は除きます)

選考：書類選考により決定

申し込み期間：令和4年5月9日(月)～令和4年5月31日(火)

※詳細は表題問合せ先まで、または広報5月号、町ホームページをご覧ください。

URL <https://www.town.moroyama.saitama.jp/>

